

松本先生の偉業が医学会に正当に評価され、
免疫を抑制しないことが、「標準治療」に
なりますように。

「真実・唯一無二の治療に感謝して

(リウマチ手記)」 渡邊顕子 56歳

2015年12月7日

私は、2010年に関節リウマチを発症して、5年となります。2014年6月までの4年間は薬による対症療法を続けていましたが、幸いなことに、同年5月、松本先生の論文「リウマチの根本治療」と出会えました。

同年7月より通院を始め、1年5ヶ月、免疫の働きを学ばせていただきながら、真の治療を続けてきました。完治とは言えませんが、感謝の心でここに経過報告を記します。

発症原因

2010年1月、高校での勤務を終え、帰宅する途中、自転車走行中の男性と接触事故を起こしました。その男性からは金銭要求をされ、仲間と共謀しての種々の威嚇行為を受けました。保険会社や弁護士に相談をしながら、2ヶ月間気を張り詰めた日々を過ごし、ようやく示談和解し、その後仮住まいへ転居をしました。恐怖から解放され、ほっとした矢先の同年10月、両肩が繰り返し硬直するようになりました。

極度のストレスに耐えるため、私は副腎からステロイドホルモン、アドレナリンを必要以上に分泌し、知らず知らずのうちに免疫を抑えていました。そして平穏を取り戻したことによって、抑えられていた免疫が一気に働き出し、関節リウマチを引き起こしたのです。

炎症・痛み

2011年4月から足指の腫れと痛みが続き、12月には左の手首、手指にも激しい腫れ、痛み、熱痛が出ました。2012年には左股関節にも痛みが出て、一時は歩行困難となりました。

検査数値

CRP (急性期炎症を起こす非特異蛋白質の一種)は、日毎に上昇していきました。

0.1 → 0.7 → 0.8 → 1.27 → 1.97
→ 3.11 → 2.34 → 2.56 → 2.81

MMP-3 (滑膜細胞に蓄積された炎症産物の後処理をする酵素の数値)も、上昇を続け、足指と左手の炎症とともに、骨も一部溶けてしまいました。

37.3 → 42.9 → 65 → 94.5 → 155.7
→ 213.4 → 32 → 289.4

服用薬

サラゾスルファピリジン(アザルフィジン)抗リウマチ薬の一種。朝夕2回。各500mg。2011年10月25日から服用を始めました。

プレドニゾロン ステロイド薬

2011年12月27日から朝のみ5mg、服用を始め、順次1mgずつ服用量を減らしていきましたが、合計服用量は3132mgに達しました。

リンパ球のパーセンテージ

薬を服用するまでは、平均33%を維持していたリンパ球は、ステロイド薬のせいで幹細胞の一部が変質してしまったのでしょうか、減少してしまいました。

離脱症状

2014年(平成26年)7月1日に松本医院で初めて診察していただき、これまで服用してきた薬を断薬した結果、8日後に激しい離脱症状が現れ、手足、股関節を中心に体中に激痛が襲いました。右腕も硬直してしまう中、追試験を予定する生徒の指導と採点を必死の思いでいたしました。断薬により、本来の免疫が正常な働きを取り戻したわけですから、苦痛を受け入れて、「ありがとう」の気持ちで乗り越えました。

発疹と痒み

休職をして、自宅ではほぼ毎日灸をすえ、漢方風呂で体を温めるようになった2014年の9月から10月には赤い発疹や痒みがよく出てきました。胸や首、腹、腕、顔のあたり、足に、出ては消えていきました。灸の痕も1週間程後に痒みが出ました。11月7日の検査数値にも改善が反映されたようでした。

2015年に入っても、入浴後に痒くなることがありました。2月以降もポツリポツリと発疹が出ては消えることを繰り返しました。7、8月は特によく出ました。恥ずかしいですが、9月10月にはへその下にまとまった発疹がでたり、おしりが耐えがたいほど痒くなったりもしました。松本医院での鍼灸治

療を受けた日にも発疹が1つ2つよく出ました。

まとめ

1. ヘルペスウイルスの増殖を抑えること

ステロイド薬を2年半服用してきた私の水痘帯状ヘルペス抗体価は、松本医院の初診時52.8(基準値は2.0未満)と高く、体内での増殖を示していました。2015年10月には30.7まで減少しました。ステロイド薬の服用によって、リンパ球が28~15%と減り続け、免疫を低下させていた期間にヘルペスウイルスが増殖していったのでしょう。

ヘルペスウイルスを増殖させる原因となる免疫を抑制する薬を飲まないこと、不愉快な痛みや症状を引き起こすヘルペスウイルスを増殖させないことが肝要だと実感しました。

2. 患者自身が真実の治療を求め、理解すること

医学について、全く無知ではあっても、病に罹った以上、その原因を探求して、どのような治療が正しいのかについて主体性をもって判断することが大切です。

3. ストレスや緊張、不安などを上手に回避して、明るく大らかな心で、また感謝の気持ちをもって過ごすことが病気を寄せつけないと実感しました。

4. 真実、唯一無二の治療とは

関節腔内に沈着、蓄積した無生物の天然異物や人工化学物質が滑膜細胞の結合組織と結びついた結果の産物であるリウマチの抗原を関節滑膜上で関節の外へ排除し、体外に出そうとするのが、正しい免疫反応であり、無生物の異物に対してできるのがIgG抗体だと学びました。この正しい免疫反応を一時的に抑制し、異物を排除する免疫の戦いを止めさせてしまう薬(ステロイド薬や抗炎症剤)や免疫抑制剤は、真の治療法ではなく、対症療法にすぎないことが身をもってわかりました。

鍼・灸、漢方薬、漢方風呂などの力を借りて、免疫反応を抑制せずに、免疫を回復し高め続ける方法によってのみ、異物を排泄する最もふさわしい抗体は、異物を殺すためのIgG抗体ではなく、IgE抗体だと認識させ、ヘルパー2Tリンパ球が出すインターロイキン4の指令を受けて、Bリンパ球がIgGからIgEへと抗体の産生を切り替え、異物を皮膚や鼻などから体外へ吐き出すアトピーが出現していくという真実に出会うことができました。

さらには、異物と結合組織(キャリアタンパク)の複合物を排除しきれないこと、共存するしかないことを認識して、異物との共存を可能にするサプレッサーTリンパ球が異物との戦いを終わらせるという、完璧かつ見事な免疫の仕組

みも学ばせていただきました。

5. 謝辞

医学研究的には、クラススイッチを行うBリンパ球の遺伝子を発見された本庶佑先生、サプレッサーTリンパ球を発見された坂口志文先生がおられますが、これらを日々の臨床とたゆまぬご研究から発見され、実証してこられた方は、松本先生お一人です。

免疫の働きを抑制せずに高め続けて、先生ご自身が命名されました「自然後天的免疫寛容」に至ることこそが、真実であり、唯一無二の正しい治療であると教えていただきました。私心なく無償で、真の免疫のメカニズムと根本治療法を公開くださり、数多くの患者を励まし、助力をくださった松本先生の偉業に心より感謝いたします。

最後になりますが、松本先生の偉業が医学会に正当に評価され、公認され、免疫を抑制しない治療が、「標準治療」となること、そして松本院長先生が、ストックホルムでノーベル医学生理学賞を受賞される日が来ることを願ってやみません。

検査数値

2014年	7/1	8/3	9/9	10/8	11/7	12/26
血沈	18	60	45	32	25	21
CRP	0.92	2.0	1.74	1.56	0.83	0.93
MMP - 3	237.3	332	326.7	241.9	119.8	176.4
VZV IgG	52.8					

2015年	1/23	2/27	3/27	4/10	5/20	6/17	7/15	8/11	9/4	10/2	11/4
血沈	27	21	22	28	33	33	35	21	17	6	14
CRP	1.19	1.05	0.86	1.69	1.95	0.83	0.26	0.62	0.36	0.44	0.2
MMP - 3	335.7	254.7	281.4		345.2			239.3		271.9	
VZV IgG	67.6									30.7	